

2017年度 環境活動レポート



佐賀板紙株式会社

Saga Paperboard Co.,Ltd

<http://www.sagaita.co.jp/>

活動期間 2017年4月～2018年3月
2018年6月29日

もくじ

	ページ
1.ご挨拶	2
2.組織の概要	3
3.環境方針	4
4.過去3年間の環境負荷実績と環境目標	5～6
5.主要な環境活動計画	7
6.環境目標の達成状況と評価	8
7.環境活動計画の取組み結果とその評価・次年度の取組み内容	9～10
8.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 ならびに違反訴訟等の有無	11～12
9.代表者による全体評価と見直しの結果	13
10.参考(用語の解説)	14

1. ご挨拶

当社の歴史は、大正5年(1916年)現在地に肥前板紙株式会社が設立されたことに始まります。

以来、幾多の社会環境や世界経済の変化を乗り越え、また多様化するお客さまのニーズにお応えする製品を開発し、資源の乏しい我が国においてリサイクル可能な紙製品を社会に提供して参りました。

佐賀板紙は紙加工業界のパイオニアとして長年培ってきた貼合技術をもとに王子グループ内での一体事業として紙の持つ可能性を貼合板紙、紙管、紙アングルの分野で追求し続けてきました。我々は、紙加工を通して紙の特性を社会に役立たせることが佐賀板紙の使命と考えております。

当社は2013年6月、持続可能な循環型社会の実現に積極的かつ継続的に取り組むためにエコアクション21を導入致しました。

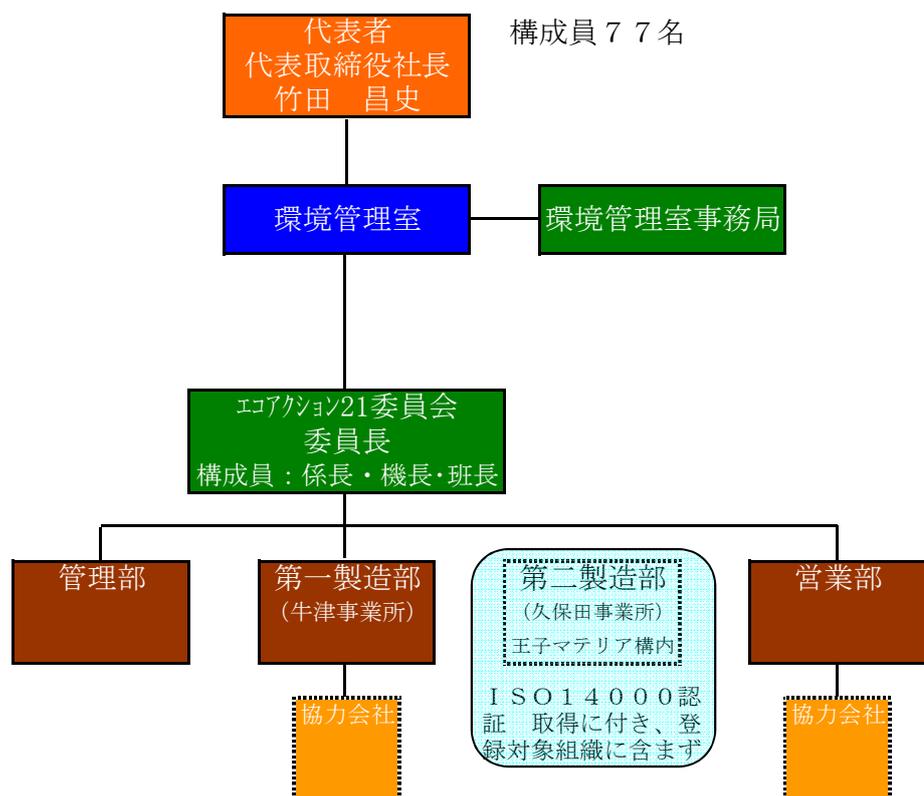
佐賀板紙株式会社
代表取締役社長 竹田 昌史

2. 組織の概要

1. 事業者名 佐賀板紙株式会社
- 代表者氏名 代表取締役社長 竹田 昌史
2. 所在地 (対象組織) 牛津事業所(本社・工場) 〒849-0302 佐賀県小城市牛津町柿樋瀬1140番地
- ISO14000認証・取得済み 〒849-0204 佐賀県佐賀市久保田町1番地
(久保田事業所) (王子マテリア株式会社 佐賀工場内)
3. 環境管理責任者
担当者氏名 安全衛生・環境管理室長 小林 均
開発技術室長 小林 均
連絡先 TEL:0952-66-1231
FAX:0952-66-1475
E-mail:kobayashi282213@oji-gr.com
<http://www.sagaita.co.jp>
4. 事業の概要 (対象活動) 製紙用紙管、一般紙管、紙アングル、紙紐、製本用芯材の製造販売
5. 事業の規模 事業年度:4月～翌年3月

(単位)	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
売上高 (百万円)	1,357	1,437	1,417	1,421	1,474
従業員 (人)	30	31	31	30	27
敷地面積 (㎡)	44,061	44,061	44,061	44,061	44,061

6. 対象組織



*2018年3月末現在

3. 環 境 方 針

佐賀板紙株式会社は、リサイクル可能な紙加工製品を社会に提供することで、持続可能な循環型社会の実現に貢献します。

- 1、製品の開発・生産および流通の各段階において、常に環境への影響を考え、環境負荷の少ない紙加工製品を社会に提供します。
- 2、企業活動に関わる法規制を常に把握し遵守します。
- 3、次の事項を省資源・省エネルギーの重点的なテーマとして、環境保全活動を推進します。
 - (1) エネルギー使用量を抑え、二酸化炭素の排出量を削減
 - (2) 廃棄物排出量削減
 - (3) 水使用量（総排水量）削減
 - (4) 原紙歩留まりの向上
 - (5) 化学物質は適正に使用
 - (6) グリーン購入の促進
 - (7) 地域貢献活動の推進
- 4、環境教育・訓練の実施により、従業員はもとより関連会社にも周知徹底し、全員参加の環境保全活動を推進します。
- 5、環境活動レポートを作成し、環境取り組みの状況を公表します。

2017年6月28日

佐賀板紙株式会社

代表取締役社長 竹田 昌史

4-1. 過去3年間の環境負荷実績

*紙加工業においては、生産量は重量で捉えるのが一般的である。環境負荷項目の総量は生産重量と密接な関係があるため、全ての目標は仕掛り品も含めた延べ生産高重量原単位で評価することが妥当と考える。ただし、原紙歩留まりについては製品生産高で求めた。

4-1 主要な環境負荷の実績把握

*使用電力の二酸化炭素排出量への換算は、九州電力の2010年度実排出係数0.385kg-CO₂/kWhを使用して求めた。

環境目標項目	原単位管理実施項目	単位	該当職場	2011年度 基準年	2015年度 実績	2016年度 実績	2017年度 実績	
温室効果ガス 排出量 原単位	二酸化炭素	kg-CO ₂	全社	293,000	231,847	239,161	250,521	
	二酸化炭素排出量の原単位削減	kg-CO ₂ /T		31.161	26.284	27.122	29.967	
	牛津事業所使用電力	電力	kWh	全社	583,884	498,396	522,851	545,206
		電力使用原単位削減	kWh/T		62.097	56.501	59.294	65.217
	構内運搬燃料	軽油	L	作業現場	7,905	8,053	8,066	8,153
		軽油使用原単位削減	L/T		0.841	0.913	0.915	0.975
		ガソリン	L	作業現場	78	0	0	0
		ガソリン使用原単位削減	L/T		0.008	0.000	0.000	0.000
	LPG	LPG	kg	作業現場	1,660	0	0	0
		LPG使用原単位削減	kg/T		0.177	0.000	0.000	0.000
冬季原紙加温用ボイラー燃料	LPG	kg	#47ソグ ^ル	8,100	4,300	4,000	5,000	
	LPG使用原単位削減	kg/T		0.861	0.487	0.454	0.598	
社有車	ガソリン	L	営業部	7,744	2,551	2,020	1,815	
	ガソリン使用原単位削減	L/T		0.824	0.289	0.229	0.217	
廃棄物排出量原単位	廃棄物	t	全社	54.3	27.7	29.4	31.2	
	廃棄物使用原単位削減	t/T		0.006	0.003	0.003	0.004	
水使用量原単位	水	m ³	全社	2,270	1,475	1,283	1,473	
	水使用原単位削減	m ³ /T		0.241	0.167	0.145	0.176	
原紙使用歩留まり	原紙	t	作業現場	8,975	7,767	7,736	7,779	
	原紙歩留まり	%		81.1	84.5	85.2	85.0	

単位Tは延べ生産高を表している。

4-2. 環境目標

弊社における2009年度から2011年度の環境負荷実績を把握し、2011年度を基準年として、2015年度から2018年度の目標を次のとおり定め活動を開始した。

原紙歩留りは0.5%向上、他は1.0%削減を目標とした。

環境目標項目	原単位管理実施項目	単位	2011年 基準(実績)	2015年 目標	2016年 目標	2017年 目標	2018年 目標	
温室効果ガス 排出量 原単位	二酸化炭素	kg-CO ₂	293,000	▲4%	▲5%	▲6%	▲7%	
	二酸化炭素排出量の原単位削減	kg-CO ₂ /T	31.161	29.915	29.603	29.292	28.980	
	牛津事業所使用電力	電力	kWh	583,884	▲4%	▲5%	▲6%	▲7%
		電力使用原単位削減	kWh/T	62.097	59.613	58.993	58.372	57.751
	構内運搬燃料	軽油	L	7,905	▲4%	▲5%	▲6%	▲7%
		軽油使用原単位削減	L/T	0.841	0.807	0.799	0.790	0.782
		ガソリン	L	78	▲4%	▲5%	▲6%	▲7%
	LPG	ガソリン使用原単位削減	L/T	0.008	0.008	0.008	0.008	0.007
		LPG	kg	1,660	▲4%	▲5%	▲6%	▲7%
	LPG使用原単位削減	LPG	kg/T	0.177	0.170	0.168	0.166	0.165
冬季原紙加温用ボイラー		LPG	kg	8,100	▲4%	▲5%	▲6%	▲7%
	LPG使用原単位削減	kg/T	0.861	0.827	0.818	0.810	0.801	
社有車	ガソリン	L	7,744	▲4%	▲5%	▲6%	▲7%	
	ガソリン使用原単位削減	L/T	0.824	0.791	0.782	0.774	0.766	
廃棄物排出量原単位	廃棄物	t	54.3	▲4%	▲5%	▲6%	▲7%	
	廃棄物使用原単位削減	t/T	0.005775	0.00554	0.00549	0.00543	0.00537	
水使用量原単位	水	m ³	2,270	▲4%	▲5%	▲6%	▲7%	
	水使用原単位削減	m ³ /T	0.241	0.231	0.229	0.227	0.225	
原紙使用歩留まり	原紙	t	8,975	+2.0%	+2.5%	+3.0%	+3.5%	
	原紙歩留まり	%	81.1	82.7	83.1	83.5	83.9	
古紙配合紙100%使用継続				遵守				
使用化学物質の把握と適正使用				SDS、新規使用原材料安全シート完全取得、リスクマネジメント完全実施				
グリーン購入の推進		品目数		4品目	5品目	6品目	7品目	
地域貢献活動の推進		回数		4回/年	4回/年	4回/年	4回/年	

* 使用電力の二酸化炭素排出量への換算は、九州電力の2010年度実排出係数0.385kg-CO₂/kWhを使用して求めた。

5. 2017年度における主な環境活動計画

原単位管理実施項目	統括責任者	担当者	活動項目
1.二酸化炭素排出量原単位を2011年度比6.0%削減 電気使用量削減 原単位を2011年度比6%削減 リフト軽油使用量削減 原単位を2011年度比6%削減 リフトガソリン使用削減 原単位を2011年度比6%削減 リフトLPG使用量削減 原単位を2011年度比6%削減 ボイラーLPG使用量削減 原単位を2011年度比6%削減 社有車がソソ使用量削減 原単位を2011年度比6%削減	小林室長	菰田 古賀智 釘本 江頭隆 江頭隆 江頭隆	1 空調の適温化(冷房28度程度、暖房20度程度)を徹底する 2 パソコンの省エネ設定を徹底する 3 エアコンのフィルター掃除回数を増やす 4 省エネ型照明(LED、冷陰極管)採用エリア拡大 5 独立型太陽光発電の活用(守衛室をまかなう) 6 生産設備(コンプレッサー)の効率化
		KLC KLC	1 エコ運転の実施 2 素材、製品の再移動を少なくする
		KLC	1 エコ運転の実施
		松永 山崎	1 エコ運転の実施 2 素材、製品の再移動を少なくする
		森	1 ボイラー運転時間の標準化
		松尾 松尾 松尾	1 エコ運転の実施 2 社有車(ハイブリッド)の有効利用 3 ハイブリッド型営業車導入
2.廃棄物排出量原単位を2011年度比6.0%削減 廃棄物排出量削減	小林室長	山口 山口 小林	1 分別強化でリサイクル(古紙)推進 2 素材運搬時のラッピングフィルムの減量 3 糊ポット皮膜の発生抑制
3.水使用原単位を2011年度比6.0%削減 水使用量削減	小林室長	江頭賢 江頭賢	1 節水コマの取り付け 2 糊洗浄水処理水をトイレに活用
4.原紙使用歩留まりを2011年度比1.30%向上 原紙歩留まりを向上させる	小林室長	釘本 釘本 手塚 野田	1 素材寸法を適正化する 2 段取り回数を減らす(リピート品の素材在庫を増やす) 3 指定本数以上を生産しない(1本たりとも) 4 作業標準の見直し
5.古紙配合紙100%使用継続	小林室長	古賀智	新規原紙の購入に当たっては、証明書を手入する
6.使用化学物質の把握と適正使用		小林	1 SDS、新規使用原材料安全シート取得、リスクマネージメント実施
7.グリーン購入の推進	林部長	中村	1 グリーン相当事務用品の調査購入
8.地域貢献活動の推進	小林室長	小林	1 敷地周辺道路のごみ拾い実施

6. 環境目標の達成状況と評価

エコアクション21の運用を行った、2017年4月から2018年3月までの1年間の目標に対する実績は次の通りであった。

* 使用電力の二酸化炭素排出量への換算は、九州電力の2010年度実排出係数0.385kg-CO₂/kWhを使用して求めた。

環境目標項目	原単位管理 実施項目	区分	単位	2011年度 (基準年度)	2017年度		目標達成率	評価	
				実績 上段: 使用量実績 下段: 原単位	原単位目標	実績 上段: 使用量実績 下段: 原単位			
温室効果ガス 排出量削減項目	CO ₂	排出量	kg-CO ₂	293,000	▲6%	250,521	98	△	
		原単位	kg-CO ₂ /T	31.161	29.291	29.967			
	電力使用量 原単位6.0%削減	電力	使用量	kWh	583,884	▲6%	545,206	88	△
			原単位	kWh/T	62.097	58.371	65.217		
	構内運搬燃料 原単位6.0%削減 (リフト燃料)	軽油	使用量	L	7,905	▲6%	8,153	77	△
			原単位	L/T	0.841	0.791	0.975		
		ガソリン	使用量	L	78	▲6%	0	使用実績なし	
			原単位	L/T	0.008	0.008	0.000		
	LPG	使用量	kg	1,660	▲6%	0	使用実績なし		
		原単位	kg/T	0.177	0.166	0.000			
	冬季原紙加温燃料 原単位6.0%削減 (ボイラー燃料)	LPG	使用量	L	8,100	▲6%	5,000	126	◎
			原単位	L/T	0.861	0.809	0.598		
社用車営業車燃料 原単位6.0%削減	ガソリン	使用量	L	7,744	▲6%	1,815	172	◎	
		原単位	L/T	0.824	0.775	0.217			
廃棄物排出量 原単位6.0%削減	産業廃棄物	使用量	t	54.3	▲6%	31.20	132	◎	
		原単位	t/T	0.0058	0.0055	0.0037			
水使用量原単位6.0%削減	水	使用量	m ³	2,270	▲6%	1,473	122	◎	
		原単位	m ³ /T	0.241	0.227	0.176			
原紙使用歩留まり 3.0%向上	原紙	使用量	t	8,975	0.03	7,779	103	○	
		原紙歩留まり	%	81.1	83.5	85.0			
	製品生産高		t	7,275		6,614			
	延べ生産高 (含む仕掛品)		t	9,403		8,360			
古紙配合紙100%使用継続				新規原紙の購入に当たっては、証明書入手する				新規購入原紙なし。	
使用化学物質の把握と適正使用				SDS、新規使用原材料安全シート完全取得、リスクマネジメント完全実施				○	
環境法令等の遵守				環境カレンダーに基づき、自主測定・各種届出実施				○	
グリーン購入の推進		品目数	6品目	ホワイトボードマーカー、マグネットバー、フッシュマグネット、バインダー、パンチ、デスクマット、レールホルダー購入。					
地域貢献活動の推進		回数	4回/年	4月、10月、12月、3月4回 実施した。総勢61名					

* 原単位は工程が一次、二次工程等があり全てでエネルギーを使用するので対延べ生産高歩留まりは製品生産高で求めた。

評価	よく出来た	◎	120%以上
	ほぼ出来た	○	達成
	努力を要す	△	未達

生産活動に使用するリフトをガソリン、LPG(ガソリン併用)車を軽油車に切替え車輛が増えたことにより軽油が目標未達であった。社用車燃料はエコカーに切替え後は大幅にクリアーをすることでCO₂削減は目標を達成することが出来た。

7. 環境活動計画の取組結果とその評価(1)

7. 1 二酸化炭素排出量の削減

目標原単位に対して達成率は98%であった。

作業現場の夏場は暑さ対策として天吊りスポットエアコン、床置きスポットエアコンを使用しまた、20年以上使用していた休憩室のエアコン2台を高効率エアコン1台に切替えを行った。

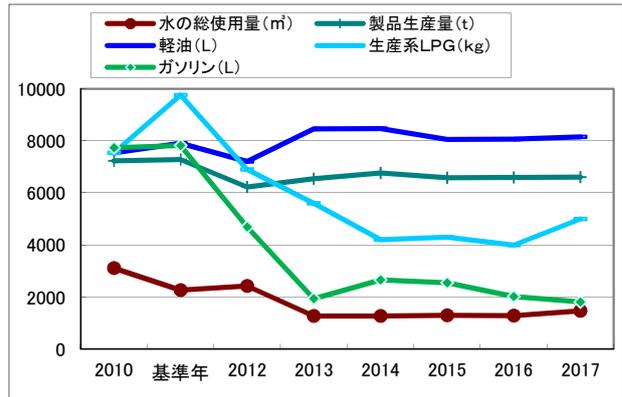
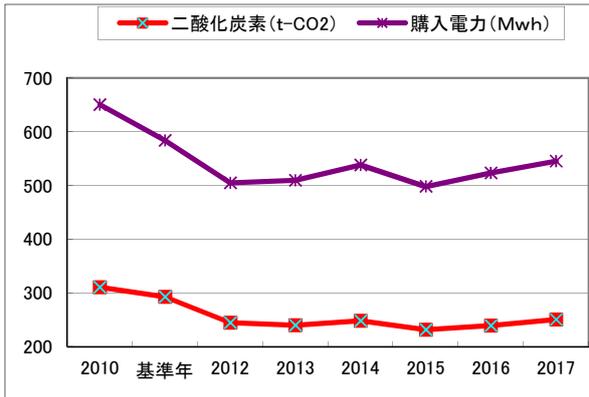
冬場は寒さ対策として遠赤外線ヒーターを使用しており、使用頻度の高い職場で生産量が増え稼働時間の増大により目標は達成出来なかったが不必要な時は電源を切り、昼休みも不必要な電気は消し、蛍光灯もLED灯やCCFL灯、Hf灯に切替えを行った。

電力デマンド監視装置でピークシフト、ピークカットによりピーク電力を抑え、負荷率向上に努め、従業員一人ひとりが省エネ意識が向上し不必要電力の削減を行った。

軽油は、目標値を達成できなかった。LPG（ガソリン併用）車を軽油車に切替え後は軽油使用車両が増えたことで使用量が増えた。

ガソリンはエコドライブ手順書に沿った、急発進の抑制、アイドリングストップ機能の活用などに加え、不要な積載物を減らし、個人車両使用の抑制を図った。

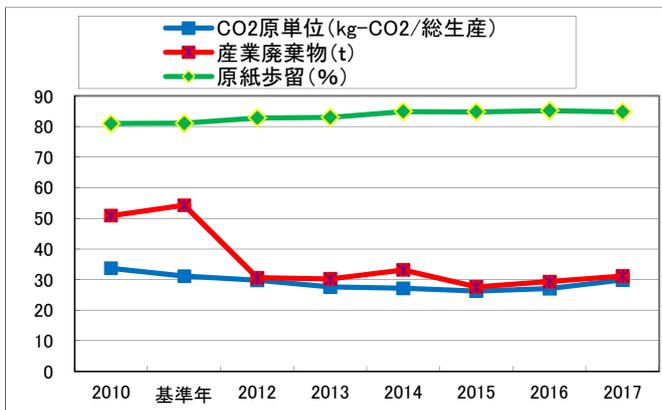
さらに効率を上げるべく営業活動時にはカーナビマップを定期的に最新版に更新し、最短ルートの設定などの諸取組みにより削減効果が得られた。



7. 2 廃棄物排出量の削減

廃棄物排出量は目標に対して132%であった。

産業廃棄物として処理を行っていた難離解古紙を個別梱包することで紙のリサイクルとして有効利用が出来、また、ストレッチフィルムやPPバンドは適切な表示と分別することで樹脂の原料として売却を行うことで排出量が減少し総量の削減が図れた。



7. 3 水使用量の削減

水使用量は目標に対して122%であった。

凍結防止対策として夜間に水道蛇口を開けその流量が多かったこともありましたが、社内水道蛇口に節水コマは取り付けて節水に努め、また、蛇口周辺は節水表示し、流しっぱなしの防止に努め、節水への継続的な取組により目標を達成できた。

(節水啓蒙表示)



7. 環境活動計画の取組結果とその評価(2)

7. 4 原紙使用歩留まりの向上

生産工程の見直し調整で段取り換え回数減に取組み、クリアーした。

7. 5 古紙配合紙100%使用を継続

新規に使用を始めた原紙はなかった。

7. 6 使用化学物質の把握と適正使用

含有する物質に関する証明書」(王子HDシステム)をメーカーより取得。

GHS未対応SDSはなかった。

7. 7 グリーン購入の推進

木口ボード、マグネット、プッシュマグネット、バインダー、パンチ、デスクマット、レールホルダー購入した。

7. 8 地域貢献活動の推進

4月18名、10月12名、12月18名、3月13名の参加人員にて工場より牛津駅、江津交差点までの清掃活動を実施。



会社周辺での清掃活動

7. 9 次年度へ向けて

電力使用量についてはデマンド監視装置での管理を徹底し、昼休みは原則として消灯することを継続して実施する。

また、構内運搬燃料については製品の横持ち回数を減らし走行回数の削減に取組み、社用車営業車燃料は急発進、急加速をせず、アイドリングストップなどのエコドライブを実践する。

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果ならびに違反、訴訟の有無

該当法規制等の名称	要求事項	関連施設等	評価	
佐賀県環境の保全と創造に関する条例	特定施設の設置等の届出 特定施設の構造等の変更の届出 氏名の変更等の届出 継承の届出 用水設備と都道府県知事の許可 揚水施設の構造の変更等の届出 地下水採取量の測定等	紙管製筒機 平判貼合機 アングル製造機 ボンス機	代表者氏名変更届、新たにボンス機届出 ○	
下水道法	使用の開始等の届出 特定施設の設置等の届出 特定施設の構造等の変更の届出 氏名変更等の届出 廃止の届出 地位の承継 事故時の措置	食堂、事務所トイレ	○ 代表者氏名変更届	
浄化槽法	浄化槽によるし尿処理等 適正な使用 保守点検 清掃 浄化槽管理者の変更届け 定期検査 廃止の届出	工場内全浄化槽	代表者氏名変更届 ○	
特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）	事業者及び消費者の責務 特定家庭用機器廃棄物管理票(テレビ、冷蔵庫、洗濯機、エアコン)		適用事例発生せず	
建設工事に係わる資材の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法）	発注者の責務 分別解体等実施義務 対象建設工事の届出等 対象建設工事の請負契約に係わる書面の記載事項 再資源化等実施義務		適用事例発生せず	
廃棄物の処理および清掃に関する法律、施行規則、施行	産業廃棄物処理の義務		○	
(産業廃棄物の処理)	処理基準の遵守		○	
	保管基準の遵守		○	
	産業廃棄物の保管		○	
	保管の届出		○	
	許可業者への委託		○	
	管理票（マニフェスト票）の写しの保管期間		○	
	管理票（マニフェスト票）に関する知事への定期報告		○	
	管理票（マニフェスト票）の写しを受けるまでの期間		○	
	(特別管理産業廃棄物)	特別管理産業廃棄物委託基準		適用事例発生せず
	(一般廃棄物の処理)	一般廃棄物委託基準の遵守		○
雑則	不法投棄、不法焼却の禁止		○	
使用済自動車の再資源化等に関する法律（自動車リサイクル法）	自動車所有者の責務 再資源化預託金等の預託義務		適用事例発生せず	
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律	第1種特定製品管理者の役割（簡易定期点検）		年4回定期点検実施	
	フロン類の引渡しに関すること（引渡業務）		空調機、エアドライヤー廃棄（適切処理）	
	役割費用分担			
特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律（PRTR法）	排出量等の把握及び届出		届出該当せず	
悪臭防止法	敷地境界線上の悪臭基準の遵守（一号規制）		○	

該当法規制等の名称	要求事項	関連施設等	評価
騒音規制法	敷地境界線上の規制基準の遵守 敷地境界の騒音 (第4種区域) 特定施設の設置届出 特定施設の数等の変更届出 氏名の変更等の届出 承継届出 特定建設作業の実施の届出	空気圧縮機 送風機	代表者氏名変更届
振動規制法	敷地境界線上の規制基準の遵守 敷地境界の振動 (第2種区域) 特定施設の設置届出 特定施設の変更届出 氏名の変更等の届出 承継届出		代表者氏名変更届
消防法	防火管理者の選任または解任の届出 危険物施設の設置、変更の届出 貯蔵または取扱う危険物の品名、数量または指定 数量の倍数変更の届出	油脂倉庫	適用事例発生せず

当事業所に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。
また、関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

9. 代表者による全体評価と見直し結果

9.1 環境活動の取組結果の全体評価

「環境関連法規等の取りまとめ／遵守状況の確認及び評価の結果」「環境目標の達成状況と評価」「2017年環境活動計画の実施状況と評価」で、数点の未達は見られるものの、環境方針に沿った活動が行われていることを確認した。

関係会社への指導も適切に行われており、事業所内全体の環境経営が着実に前進している。

9.2 環境システムが有効に機能しているか

設定目標達成に向け、日々確実に取り組みを行った。各担当者毎に設定された具体的目標を確認し、担当者が責任を持って、関係者全員の行動を指導した。

9.3 見直し結果

2017年版ガイドラインへの移行に向けて、文書の改定や目標設定の見直し等根本的に見直す必要がある。

10.参考『用語の解説』

グリーン購入

商品やサービスを購入する際に必要性をよく考え、価格や品質だけでなく、環境への負荷ができるだけ小さいものを優先的に購入することをさす。

エコアクション21 (ea21)

環境省から出された中小企業向けの環境保全活動推進プログラムである。内容としては環境への負荷の自己チェック、取り組みの自己チェックと環境保全計画の策定及び環境活動報告書の公表からなる。

環境報告書

企業の環境保全に関する方針・目標・計画、環境マネジメントに関する状況（環境マネジメントシステム、法規制遵守、環境保全技術開発等）、環境負荷の低減に向けた取組の状況（CO2排出量の削減、廃棄物の排出抑制等）等について取りまとめ、定期的に公表するものです。

Hf 灯

俗に言う「インバータ式」、点灯時に「安定器」「点灯管」が不要なため省エネ。

難離解古紙

ラミネート加工品、紙コップ、窓付封筒、紙パック、通行券等、再生困難である特殊加工された紙類。

ストレッチフィルム

ひっぱりながら梱包物を包み表面がみえやすいように包装するためのフィルム。

GHS (The Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals)

「化学品の分類および表示に関する世界調和システム」は化学品の危険有害性を一定の基準に従って分類し絵表示等を用いて分かりやすく表示し、その結果をラベルやSDSに反映させ、災害防止及び人の健康や環境の保護に役立てようとするものです。

SDS (Safety Data Sheet : 安全データシート)

事業者による化学物質の適切な管理の改善を促進するため、指定された「化学物質又はそれを含有する製品」を他の事業者に譲渡又は提供する際に、化管法SDS(安全データシート)により、その化学品の特性及び取扱いに関する情報を事前に提供することを義務づけるとともに、ラベルによる表示に努めていただく制度です。

CCFL 灯 (Cold Cathode Fluorescent Lamp : 冷陰極管)

蛍光灯の一種でLEDとほぼ同等の省エネ性と寿命があります。

デマンド監視装置

需要家の受電電力を常時監視し、設定された値を超えないよう、警告や自動制御を行う装置。

リスクマネジメント (risk management: 危機管理)

リスクを組織的に管理し、損失などの回避または低減をはかるプロセスをいう。主にリスクアセスメントとリスク対応とから成る。リスクアセスメントは、リスク特定、リスク分析、リスク評価から成る。リスクマネジメントは、各種の危険による不測の損害を最小の費用で効果的に処理するための管理手法である。